

■ 2014 MAISON & OBJET・傾向その1・COLOR

2014.2.21 Report 大場 4/9

■今年、新しく見えて来たカラーは、ゴールド&イエロー系と言えると思う。光沢のあるゴールド、高彩度のイエローがスパイスの効いたアクセントになっている。グレー系は昨年に引き続き多く、今年はアイボリーからベージュ系も含めた優しいコーディネートが新鮮に映る。ブルー系は今年も増えており、ウルトラマリン系の強いカラーが印象的。昨年多かったターコイズブルーは、淡めのトーンが増えて居り、大きな面積のアイテムに使用されているケースが目立った。

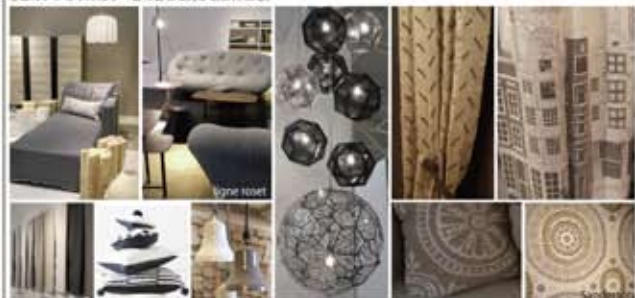
ゴールドの広がり

ファブリックスに、多く見られたゴールドのバリエーション。光沢があるタイプの物が多く感じる。モダンな仕上がりを目撃しているアイテムが多く、インテリアに華やかなアクセントを物かしている。



グレー〜ベージュのコーディネートカラー

今年もグレーのグラデーションが、多く見受けられた。色相の巾を広げたコーディネート提案が多く、アイボリー〜ベージュなどのナチュラルカラーとの合わせ方が新鮮に映る。



スパイシーイエロー

少し癖のある感じがする強いイエローが、スパイシーに使われているケースが新しく登場。



ブルー系のバリエーション

まだまだブルー系の傾向が強く見受けられる。今年は特にウルトラマリンの様な強いブルーと、淡いターコイズブルーやターコイズグリーンを広い面積に使用するケースに新鮮さを感じる。いずれも合わせるカラーとしては、アイボリーラインが多く爽やかなコーディネートに仕上がっている事が主な傾向だと思ふ。



■ 2014 MAISON & OBJET・傾向その2・QUALITY

2014.2.21 Report 大場 5/9

■昨年登場した、折り紙手法に進化を見る事が出来た。より繊細になったり、カラーの使い方に新しい提案がある。また、手織り感のある織物にも広がりを感じる。特に清潔感のあるカラーを使用した裂き織が、北欧関連の会社から多く提案されている。クオリティー全体としては、テクノロジーを駆使したり、高い技術を使った物が益々多く登場している。全体的にモダンな傾向が強いと感じた。

テクノオリガミ

昨年の折り紙手法が進化している。フォルムに合ったカラーリングや、繊細なディテールなど、複雑な構造になっている。



ざっくり感のある織物

ツイード調を始め、ざっくり感のある織物に広がりを感じる。濃い色の裂き織が、とても新鮮に見える。厚手ながらも暖かいの合い物が多い事も特徴。



刺繍テクニックの広がり

刺繍 on プリント、アップリケ、アイレット、スパンコール使い、高密度刺繍など、多くの刺繍技術を見る事が出来た。



メタリッククオリティー

光沢のあるアイテムが、再び多く出て来ている。高い技術により、特殊な光沢感を出しているケースが多く、新しい光沢の提案が多かった。



ナチュラルマテリアル

天然のマテリアルを使用した、アイテムが増えている。ファブリックスでは、リネンに注目。自然なイメージを大切にして仕上げられたアイテムが新鮮。



複雑なキルト&刺し子

表情感のあるファブリックスに、今までとは異なる変化を持たせた物が増えて来た。素材により繊細に仕上げたり、手仕事風に仕上げたりバリエーションも広い。

